

## 平成30年度「市長と語り合う会」について

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
8月27日（月）	二川地区振興センター	19:00～20:00	17	4	21

- 市側出席者  
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

### 2 会の概要

- 開会（秘書課長）

- ・会の趣旨説明
- ・出席者紹介

- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

本年度の施政方針における基本方針は「連携の進化（深化）」である。昨年度は「地元民間企業との連携の強化」を重要な柱としていたが、本年度はさらにそれを推し進め、深いものにしていく考えである。

#### ・官民連携

官民連携のもっとも典型的な取組として「自転車によるまちづくり」がある。これまで、民間の団体が自転車のイベントや競技大会を市内で開催してこられ、自転車ロードレースに対する機運が高まってきた。それを受けて市も2020年東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の事前キャンプ誘致を進めていくことを決めたところ。

6月には、北仙道地区と種地区で全日本自転車競技選手権大会が開催された。日本で頂点を決める大会が行われたことで、本市の道路環境が自転車に適していることが明らかになったほか、キャンプ誘致のための実績に繋がったものと思っている。

5月にはアイルランドを訪問し、同国の自転車チームの指導者や選手と話をした。その結果、2年後のオリンピックの出場が期待される選手が本年11月に本市を訪れ、短期の合宿を行うことが決定している。事前キャンプの決定に繋がるよう今後努めていきたい。

#### ・政策間連携

政策間連携の代表的なものは「歴史を活かしたまちづくり」である。文化財の保存や研究という要素のほかに、益田市の中世の歴史遺産を観光の目玉にする。学校教育の内容に加える。様々な特産品・土産物を開発して商品の販売増に繋げていく。ということが可能となる。

昨年グラントワで開催された「石見の戦国武将」展には、本市も共同の主催者として関わった。当初の目標を大幅に上回る来場者があり、大いに機運が盛り上がったところ。

本年度は歴史文化基本構想という計画を策定し、さらに「歴史を活かしたまちづくり」を様々な観点から進めていきたいと思っている。

#### ・都市間連携

大阪府の高槻市や豊中市、神奈川県川崎市と連携を行っている。

姉妹都市高槻市については、ふるさと納税の返礼品の相互提供を行うほか、6月の大阪北部地震では支援のための職員派遣を行った。

川崎市については、これまで文化・スポーツの交流が中心であったが、現在では商工会議所間の交流や産業での連携を行う状況にある。昨年度は、同市の大企業が開発した特許のうち、休眠特許と呼ばれる未活用の特許を益田市内の製造業者に紹介し、新たな商品開発につなげるというマッチングを行ったところ。今後もこれを継続していきたい。

#### ・大学との連携

大学との連携については、大正大学地域創生学部の学生の受入れや東洋大学との交流を行ってきた。東洋大学とは地元の高校との高大連携を進めていくことで話をしている。

また、本年度は、両大学との連携事業に加え、東京大学の体験活動プログラムにより同大学の学生を招き、本市の歴史と観光開発を結びつけるための提案をしてもらうことになっている。

このように、首都圏の大学と様々な結びつきを持つことが地域の活性化や萩・石見空港の利用拡大にも繋がってくると考えている。

・**広域連携**

県や近隣市町との連携も重要で、ひとつの取組が萩・石見空港の利用促進である。

空港については、この3月末からも東京線の2往復運航がさらに2年間継続された。今後とも交流人口の拡大や産業の基盤確保のためにも2往復運航の維持・継続に連携して取組んでいきたい。

また、高速道路の整備についても広域的に連携して進めることが重要で、現在益田～萩間の整備促進について萩市や阿武町と連携して取組んでいるところ。

・**庁内連携**

以上の連携を図るうえでは市役所内部の連携も重要になってくる。特に、今年度から機構改革を行った美都、匹見総合支所と本庁との連携もこれまで以上に深め、一つの益田市役所として市民サービス、施策の推進を図っていきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 防災士の資格取得補助について
- ② 旧二川小学校跡施設の活用について
- ③ 市道改良について
- ④ 里帰り出産について
- ⑤ 宇津川団地教職員住宅の売却について
- ⑥ 市営湯の香住宅の管理について
- ⑦ 市営湯の香住宅及び湯の香団地について
- ⑧ 旧美都町の歴史資料について
- ⑨ 全国消防操法大会の出場PRについて

○ 閉 会 （秘書課長）

## 平成30年度「市長と語り合う会」

〔会場 二川地区振興センター〕 開催日時：平成30年8月27日（月）19:00～20:00

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 防災士の資格取得補助について 他自治体では、防災士の資格取得に対して補助金が交付されるという話を聞いた。この件について、益田の消防本部に問い合わせたところ、分団長など限られた人にしか補助金が出ないと言われた。個人で防災士の資格を取得するには6万円程度の費用がかかるとされており、災害が多発する状況からすれば、多くの人が防災士の資格を取得できるよう市も支援すべきではないか。</p> <p>② 旧二川小学校跡施設の活用について 二川小学校の閉校により、学校跡施設を宿泊施設兼公民館的な要素で活用することを検討し、市と協議してきたが、現在まで話が前に進んでいない。この問題について真剣に考えてほしい。</p> <p>③ 市道改良について 国道から美都温泉に続く市道大峠線は交通量も多く、通行に危険性が高いことから早期の改良を要望してきている。この道路の改良が遅れているにも関わらず、当初予算には当該工事費が計上されてなかった。一方、同じ町内でも交通量の少ない市道八坂線の改良費は当初予算に計上されているように思う。 安全性や交通量など条件は様々あると思うが、市は何を基準に道路改良に取り組むのか。</p> <p>④ 里帰り出産について 自分の子供が益田での里帰り出産を希望し、日赤に頼んだら簡単に断られた。 市は子育てにやさしいまちづくりをすと述べており、病院建設の際には多額の支援もしていることから、日赤に対して物が言える立場にある。地元での出産を望む人のためにも里帰り出産を受け入れるよう日赤に対して働きかけてほしい。</p>	<p>①指摘の件を含め、消防団の活動に対する助成が十分でない状況も認識している。財政上の問題もあり、全ての面について支援を行うことは困難であるが、支援の有効性や必要性を精査し、今後検討していきたい。</p> <p>②市としても大きな課題として考えており、これまで内部で様々な検討を行ってきた。その中で、宿泊施設と公民館両方の複合施設として利用することも案として持ったが、実際に、その事業に係る投資、毎年見込まれる経費と収入等を考えた場合、宿泊施設としての持続的な運営は非常に厳しいと見通さざるを得ない。従って、現在の益田市の財政状況の中で当該跡施設をどのような形で整理し、活用していくのが適切なのかということを再度庁内でしっかりと検討したいと思っている。これについては、地元とも協議し、地域の理解が得られるような形で進めていきたい。</p> <p>③美都地域においては、大峠線と丸茂三隅線、八坂線の3件が市道改良の課題になっている。この3路線を一度に対応するのは財政的に厳しいことから、優先順位を決めて順次改良していく予定。 八坂線については、美都地域から益田の北仙道に繋がる幹線道路として位置付けている。交通量の問題はあるものの、工事着手から年数がかかっていることもあり、まずはこの完成を優先したところである。 丸茂三隅線については、崩落により当分の間通行止めになっている。その復旧のため、本年度予算を投入している。 大峠線については、指摘のとおり交通量の多い路線であり、早期に改良すべきとの認識はある。国の補助など財源面を含め、補正対応できる状況であれば実施する方向で検討してみたい。</p> <p>④日赤病院においては、一時は里帰り出産が一切できない、分娩制限をせざるを得ないという時期もあった。現在は、3名の常勤の産婦人科医を確保され、数年前から里帰り出産の受入れも再開されている。ただ、これも無制限ではなく、一定程度の制限を設けている様子。このことは、今後さらなる医師確保を求められているということになるので、市としても病院と連携し、この地域の医師の確保や育成に力を入れていきたい。</p>

<p>⑤ 宇津川団地教職員住宅の売却について 自分のところに「教職員住宅を売却してもらえないか。」と言ってきた人がおられたので、市教育委員会に申し出るよう話をした。これについて市からは、住民の協議の中から上がってきてない点を理由に良い答えがもらえなかったとのこと。先日新聞で、浜田市では公共的な施設を売却し市の収入にしているとの記事を見たが、当該住宅が学校に付随する施設として考えれば売却も可能であると思う。ぜひ、売却の方向で検討してほしい。</p> <p>⑥ 市営湯の香住宅の管理について 湯の香住宅の現状を管理する県住宅供給公社に見に来させてほしい。空き部屋の管理が行き届いてないので、虫が入るなど酷い状態。たまには掃除に来るとか、風を通しに来るべき。地元から苦情があった旨付け加えてほしい。</p> <p>⑦ 市営湯の香住宅及び湯の香団地について 市営湯の香住宅の殆どの部屋が空いている。市営住宅の場合、所得が上がれば家賃も上がり、過去には若い人も住んでいたが、「同じ家賃なら市内に出る。」と沢山の人が退去された。空き部屋のまま放置するよりは家賃を下げてでも入居者があれば、それだけ市の収入にもなる。空き部屋対策として、家賃を下げるような考えはないか。 湯の香団地は、造成から十数年が経過する中、あと4区画が売れ残っている。このまま放置しても売却できる見込みがないので、過去に購入された方の了解を得て、土地代を半額にするなど何か対策を考えるべき。どう考えるか。</p> <p>⑧ 旧美都町の歴史資料について 旧美都町時代に収集した民具や出土品などの資料が美都支所の3階に置いてある。せっかく集めた貴重な資料なので、綺麗な状態で適切に管理し、時には展示することも考えたらどうか。</p> <p>⑨ 全国消防操法大会の出場PRについて このたび、市内の消防団が全国大会へ出場することになっている。横断幕等を市庁舎前に掲げ、広くPRしたらどうか。</p>	<p>⑤民間へ譲渡するとなれば、それが可能かどうか要件などを確認する必要がある。持ち帰り検討する。</p> <p>⑥指摘のとおり対応したい。</p> <p>⑦公営住宅は、法に基づいて建設し、家賃についても一定の基準により設定されている。これを部屋が空いているからという理由で家賃を下げ、稼働率を上げることは、低所得者向けに賃貸し定住を促すという制度の趣旨から外れてしまう。他との公平性からしても困難である。 湯の香団地の空き区画の売却に関し、土地価格を下げることは現時点で考えていない。それが法的・制度的に可能か、或いは妥当か、持ち帰って検討したい。</p> <p>⑧匹見地域を含め全体的な課題として庁内で検討したい。</p> <p>⑨早急に検討したい</p>
---	--